東京2020パラリンピック競技大会
輝け！パラアスリートたち

パラスポーツの魅力

8月24日から9月5日にかけて、いよいよ東京2020パラリンピックが開催されます。東京で行われるのは57年ぶりで、同一都市で2度のパラリンピックが開催されるのは史上初となります。

今回から新たにバドミントンとテコンドーが追加され、22種目の競技が行われます。パラスポーツの特徴は、障害の種類や程度で優劣が決まらないよう、公平に競い合うためのクラス分けやルールが工夫されていること。例えば、車いすバスケットボールでは、障害の程度により各選手の持ち点が定められ、コート上の5人の合計点が常に基準点以内でなければなりません。緻密な戦略に基づく選手起用も見どころです。柔道では、視覚障害のある選手が互いに組み合った状態から試合が始まり、開始直後から大技が繰り出されるなど、迫力ある試合が繰り広げられます。また、ボールを使う競技であるボッチャは地上のカーリングとも呼ばれ、誰にでも楽しめるスポーツとして、障害の有無に関わらず人気が高まっています。

多様性を尊重し、平等な条件の下で能力や個性を発揮し、競い合うパラスポーツ。その競技やルールを知ることは、障害特性や必要な配慮を理解し、社会にあるさまざまなバリアを減らすことの必要性に気付くきっかけになります。

仙台ゆかりの選手・イタリア代表選手の活躍に注目

本大会には、仙台ゆかりの選手も多数出場します。バドミントン世界ランキング1位の鈴木亜弥子選手や、日本選手権で11連覇を達成した仙台市拠点の車いすバスケットボールチーム「宮城MAX（マックス）」からは藤本怜央（れお）選手をはじめ、多くの選手が代表に内定しています。

また、本市はイタリア共和国の共生社会ホストタウンに登録され、障害の有無に関わらず、誰もが暮らしやすい共生社会の実現を目指すパートナーとして、交流試合や小学校での出前授業を行うなど、絆を深めてきました。本大会に向け、8月12日から28日まで水泳・車いすフェンシング・陸上競技・シッティングバレーボールの代表選手団が、順次市内で事前キャンプを行う予定です。

限界に挑むトップアスリートの迫力あるプレーや高度な技術など、さまざまな魅力が詰まったパラリンピック。仙台ゆかりの選手やイタリア代表選手の活躍を期待し、心からのエールを送りましょう。

仙台から世界に挑戦！ パラアスリートからのメッセージ

車いすバスケットボール／藤本 怜央選手

このたび、東京2020パラリンピック車いすバスケットボールの日本代表に内定し、自身５回目のパラリンピックということで、集大成の大会となるように４年＋１年を過ごしてきました。今大会では、日本車いすバスケットボール男子チーム初のメダル獲得を目標に精一杯戦いたいと思います。また仙台市の代表としても、皆さんのエネルギーになるようなプレーで活躍しますのでご声援よろしくお願いします。

バドミントン／鈴木 亜弥子選手

東京2020パラリンピックより、バドミントンが正式種目となりました。今まで仙台で練習してきた成果を発揮し、いい結果を報告できるようにしたいです。頑張ります！

仙台ゆかりの代表内定選手

バドミントン（競技日程：9/1～5）
鈴木 亜弥子選手（仙台市在住）

車いすバスケットボール（競技日程：8/25～9/5）
藤本 怜央選手　豊島 英選手　藤井 郁美選手
萩野 真世選手　（いずれも宮城MAX所属）

トライアスロン（競技日程：8/28・29）
谷 真海選手（仙台育英学園高校出身）

車いすフェンシング（競技日程：8/25～29）
松本 美恵子選手（仙台市出身）

インタビュー　パラリンピック出場経験者の中嶋さんにお話を伺いました

中嶋 嘉津子（かつこ） さん
東北福祉大学職員、仙台市障害者スポーツ協会理事。陸上女子砲丸投げでパラリンピックに出場し、シドニー大会６位入賞（平成12年）、アテネ大会出場（平成16年）

大学在学中にパラスポーツのボランティアをしていたことがきっかけで、パラスポーツを始めました。障害のある方々が大会で活躍している姿を見て、やってみたいと思うようになり、砲丸投げを始めました。障害があることで、体育の授業も見学が多かったので、体を動かすこと自体が新鮮で、記録に一喜一憂しながらもスポーツの面白さを感じました。

初めてパラリンピックに出場したシドニー大会ではプレッシャーもありましたが、仙台から大勢の方が応援に来てくれて、それが支えとなりました。しっかり練習をして大会に臨んだものの、思うような結果につながらず、悔しい思いもしましたが、貴重な経験だったと感じています。選手村での他の種目の選手との交流や、現地の子どもたちからの声援もうれしかったですね。

パラリンピックの父と呼ばれているルードウィッヒ・グットマン博士の「失われたものを数えるな、残されたものを最大限に生かせ」という言葉がいつも私の心にあります。私自身、スポーツとの出会いがあって、いろいろなことにチャレンジできることを学びました。競技経験やそこでの人とのつながりは、人生の糧になっています。仙台市障害者スポーツ協会では、パラスポーツの体験などを行っていますが、さらに今後、障害のある子どもたちがスポーツに出会える機会をつくりたいと思っています。スポーツを楽しむことが人生を豊かにし、生きる力にきっとなると思います。

パラリンピックでは、仙台ゆかりの選手も多数出場します。悔いのないよう頑張ってほしいですね。皆さんの応援が励みになると思います。また、この機会に車いすレースのスピード感や座位での投てきなど、パラスポーツならではの特色も知ってほしいですね。ぜひ、一緒にパラアスリートを応援をしましょう。

この特集に関する問い合わせは、【パラリンピックについて】スポーツ振興課☎214･8763、FAX213･3225【パラスポーツについて】障害企画課☎214･8151、FAX223･3573

掲載内容は７月16日現在の情報です

特集①